

令和5年度

地球温暖化対策及び食品ロスに関する市民実態調査結果

高松市環境局

ゼロカーボンシティ推進課

1 調査の概要

(1) 調査目的

高松市では、地球温暖化防止のために「高松市地球温暖化対策実行計画」を策定し、温室効果ガス排出量削減のための取組を推進しています。また、ごみ減量・再資源化を目指した「高松市一般廃棄物処理基本計画」を策定し、食品ロスの削減のための取組を推進しています。

このアンケートは、市民の皆様の地球温暖化対策、食品ロスに対する意識や取組状況を把握するとともに、今後の本市の脱炭素化に係る施策等に反映させることを目的とするものです。

(2) 調査内容

- ・地球温暖化問題への関心度について
- ・地球温暖化防止に向けた取組について
- ・デコ活について
- ・ゼロカーボンシティについて
- ・食品ロスの減量につながる取組について
- ・地球温暖化対策、食品ロスについての御意見

(3) 調査対象者

満18歳以上の市民（1,000人）

(4) 調査対象者の抽出方法

住民基本台帳（令和5年12月1日現在）から、中学校区ごとの登録人口で按分し、校区ごとに無作為に抽出

(5) 調査期間

令和5年12月15日（金）～令和6年1月15日（月）

(6) 調査方法

調査対象者に、調査票と返信用封筒を同封して郵送し、郵送若しくはインターネットによる回答

(7) 回収結果

- ・発送数 1,000件
- ・回収数 385件
- ・回収率 38.5%

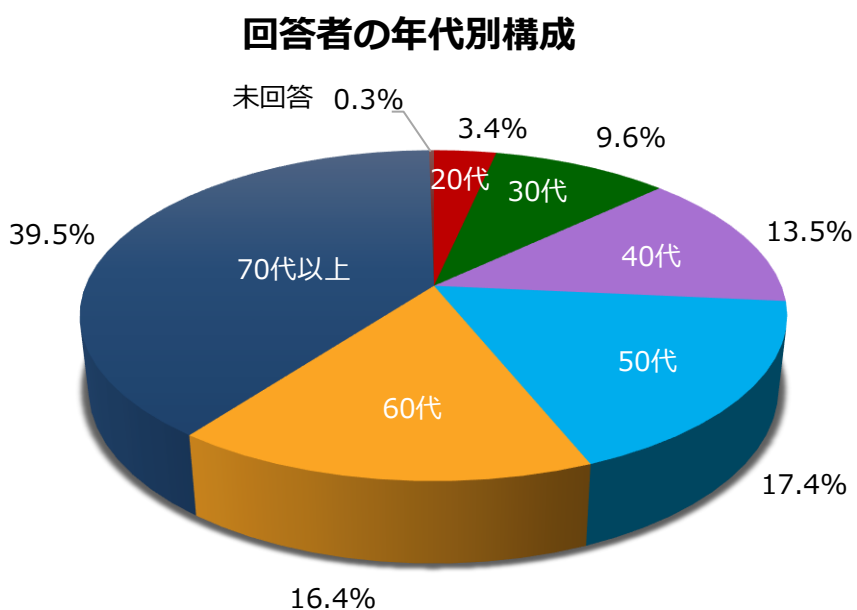
(8) その他

各設問の回答比率(%)は、小数点以下第2位を四捨五入しているため、合計が100%にならないことがあります。

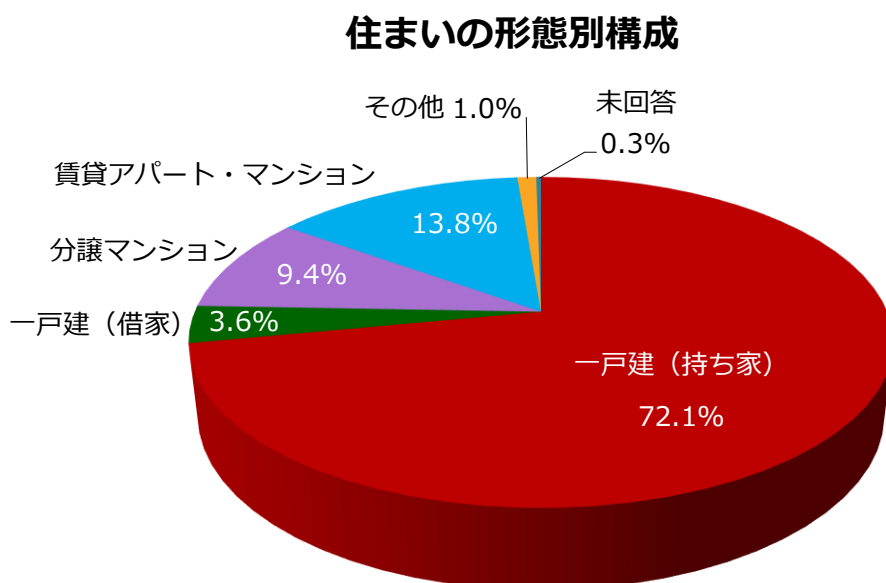
2 調査の結果

1 回答者の属性

(1) 年齢階層別

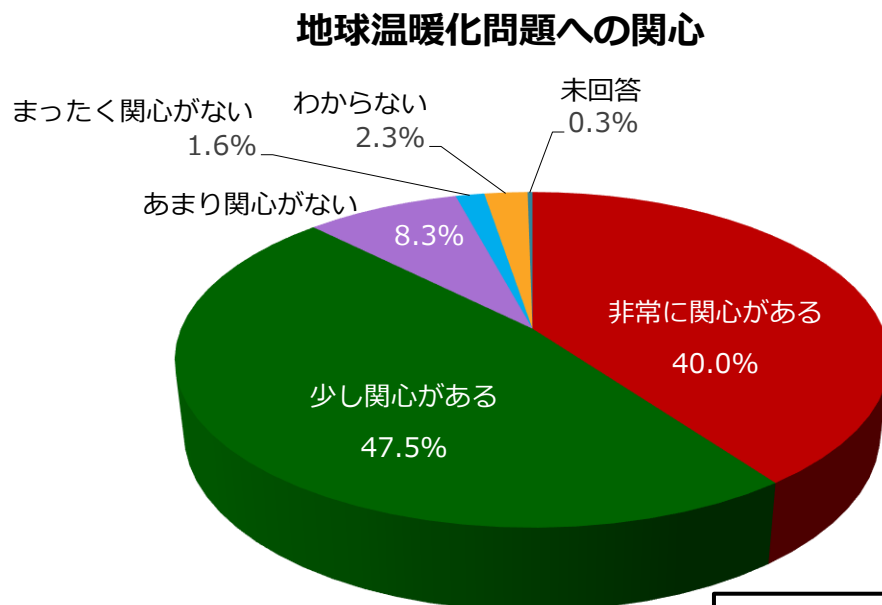


(2) 住居形態別



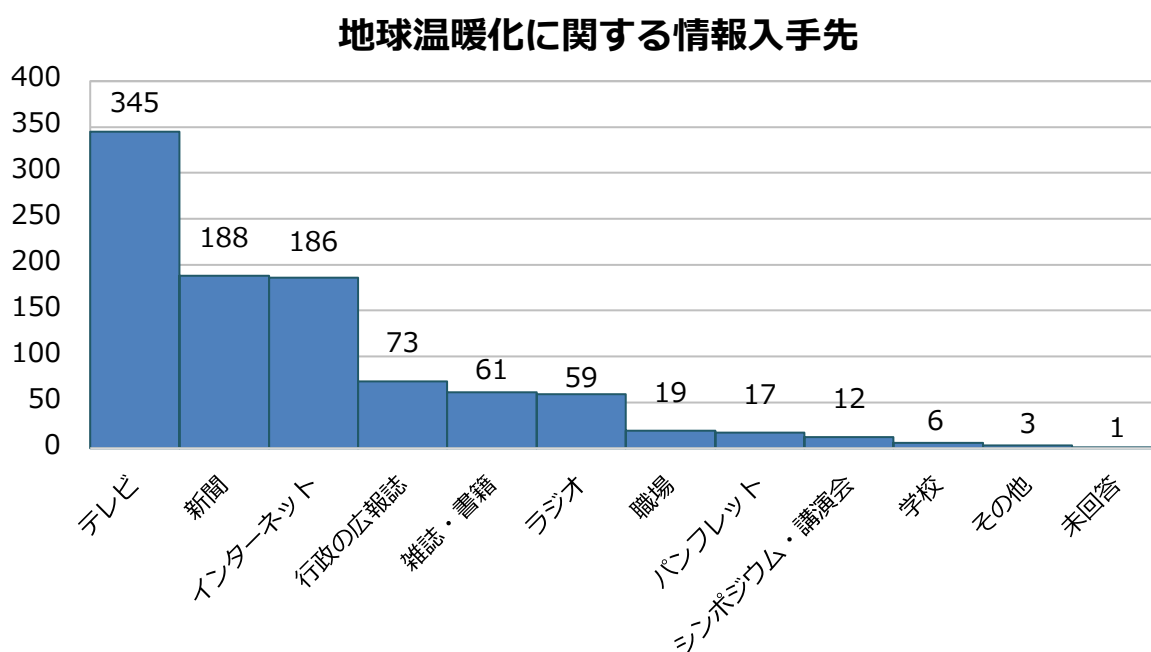
2 地球温暖化問題への関心度について

- (1) 地球温暖化問題に関心がありますか。あなたの考えに最も近いものを選んで、番号に○を付けてください。



地球温暖化に関心がある人が約9割

- (2) あなたは、地球温暖化に関する情報を、普段、どこから得ていますか。あてはまるものすべてを選び、番号に○を付けてください。

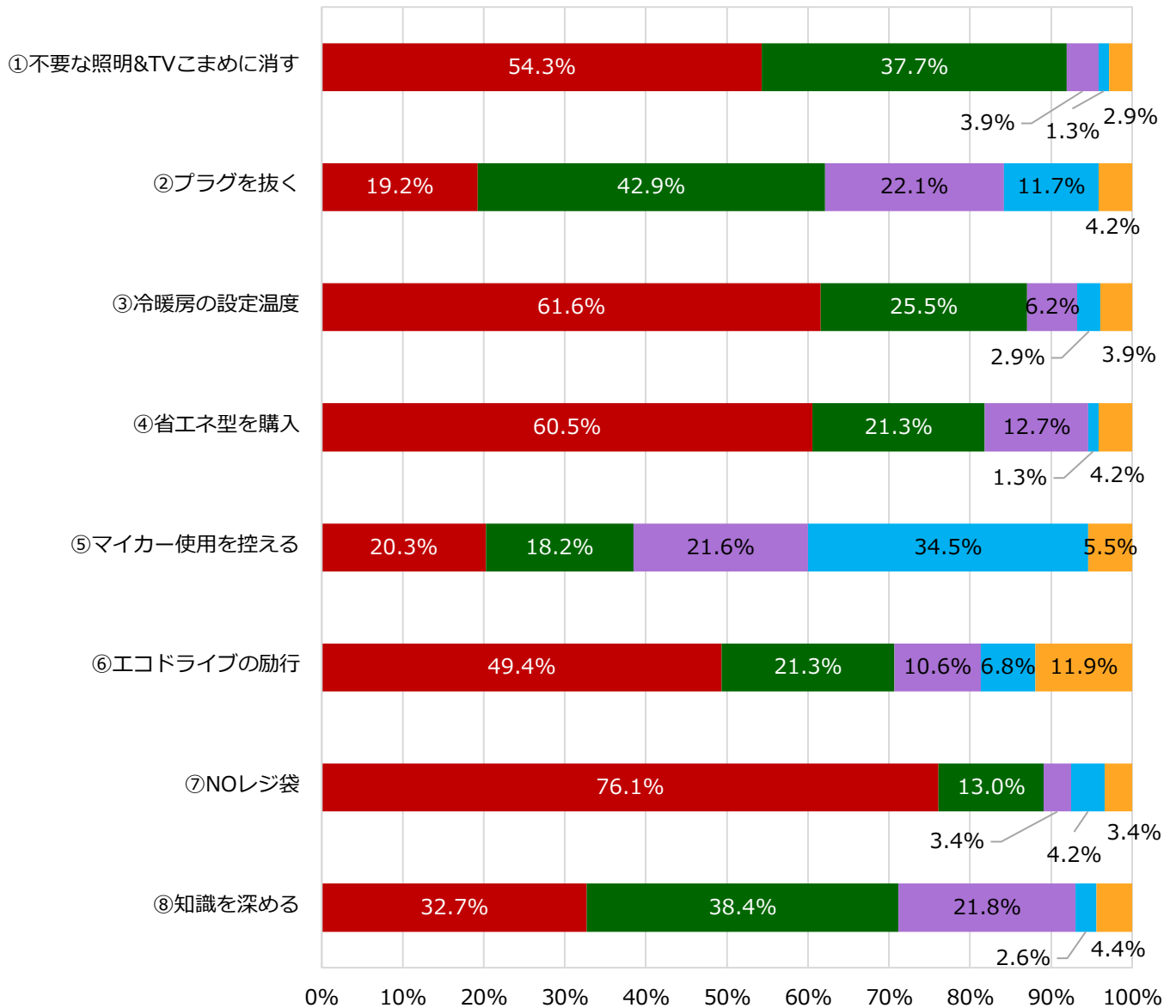


主な情報入手方法はテレビ、新聞、インターネット

(3) あなたが日頃、地球温暖化防止のために実施していることはありますか。
 それぞれの項目ごとに、あてはまるものを1つ選んで○を付けてください。

地球温暖化防止のためにしていること

■ 常に心がけ実施している ■ 気が付いた時に実施している ■ 今後実施したい
 ■ 今後も実施しない ■ 未回答

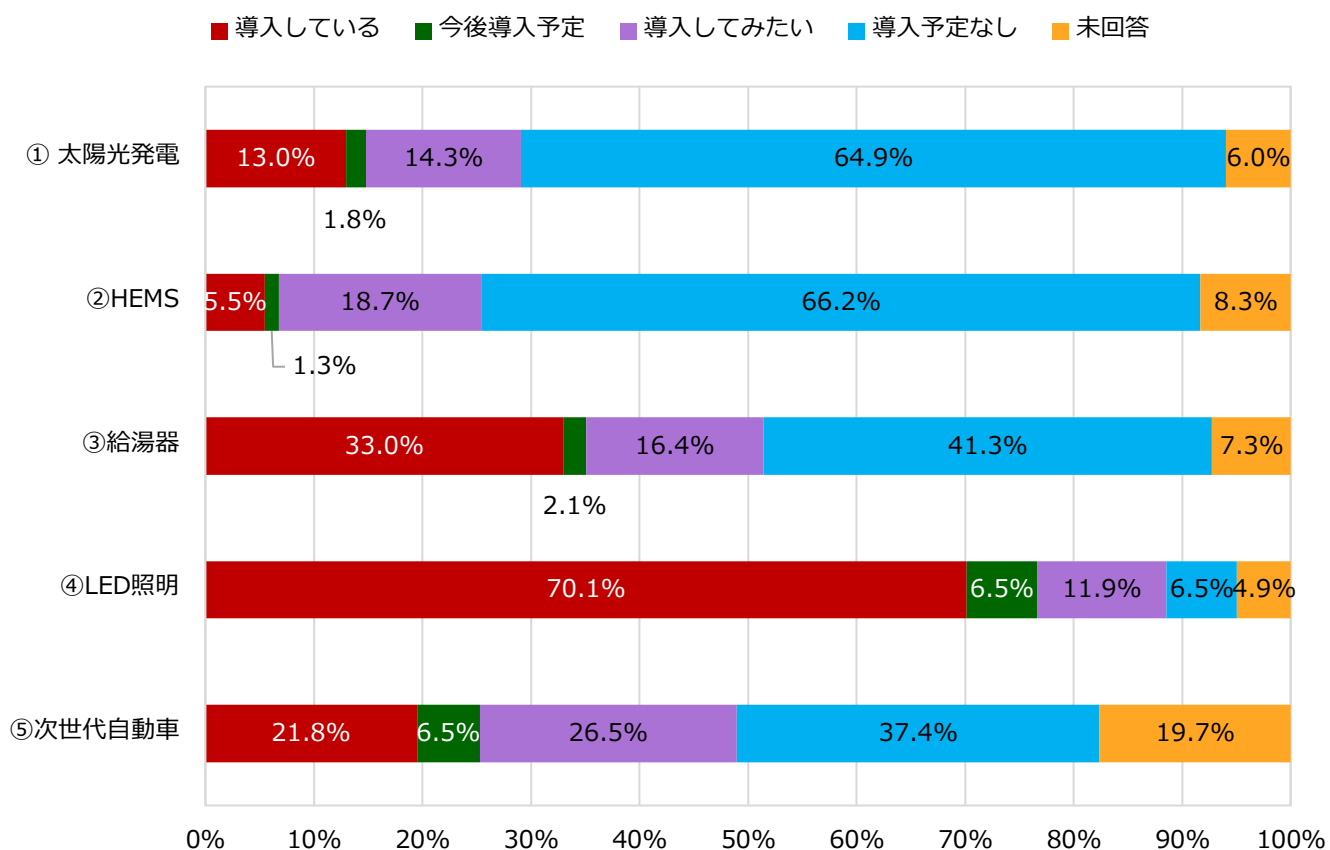


(4) あなたのお宅では、地球温暖化防止につながる省エネルギーや自然エネルギーに関する設備等を導入していますか。

それぞれの項目について、あてはまるものを1つ選んで○を付けてください。

LED照明は、約7割が導入済

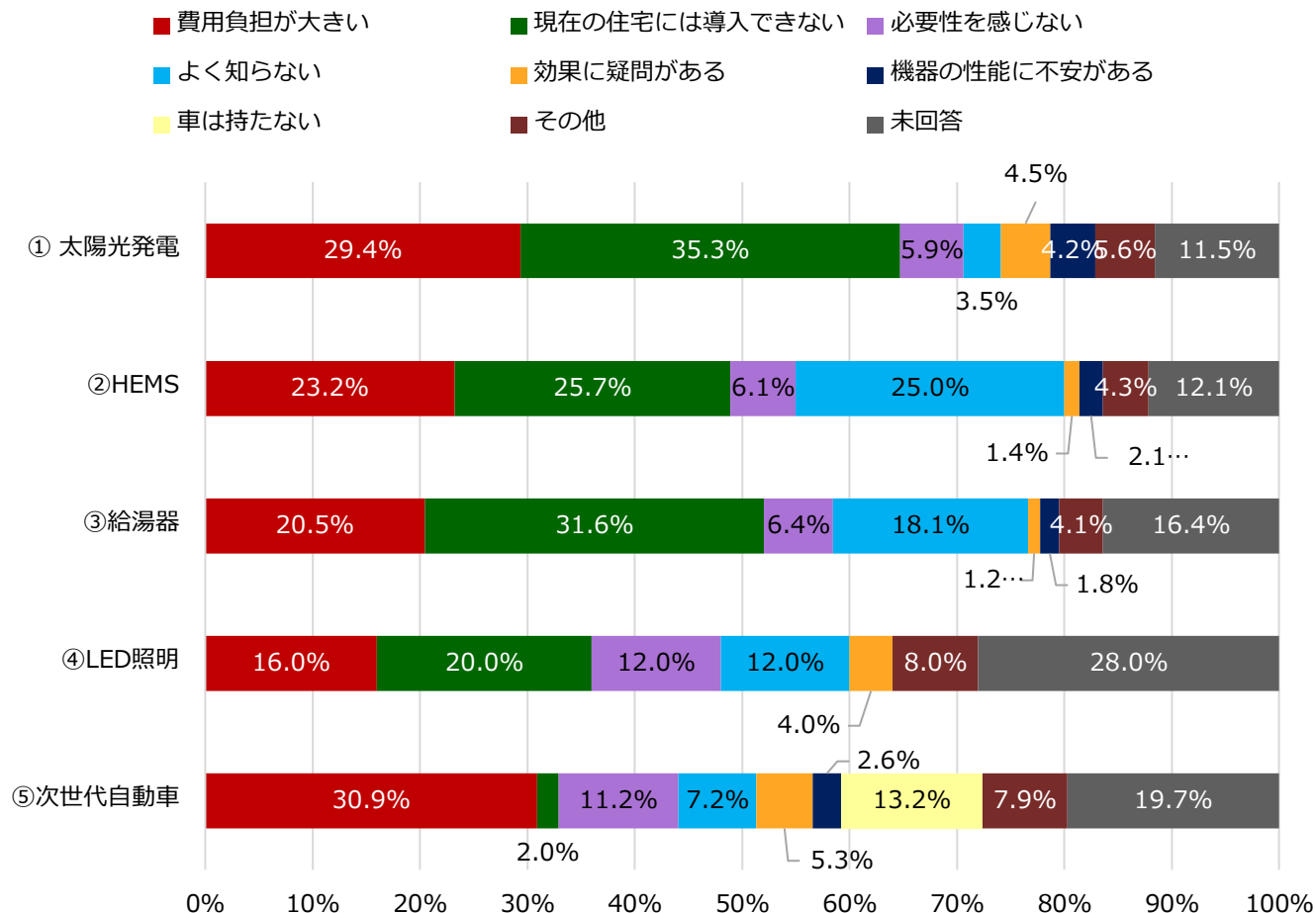
再エネ・省エネ設備の導入等



「導入済」の割合が高いものは、「LED照明」(70.1%)、次いで「高効率給湯器」(33.0%)という結果になりました。一方、「住宅用太陽光発電システム」については、「導入済」が1割程度、「家庭用エネルギー管理システム (HEMS)」については、「導入済」が5.5%にとどまる結果となっています。

(4) また、「導入の予定はない」とお答えいただいた方は、その理由を選びアルファベットを理由欄に御記入ください。

導入できない理由



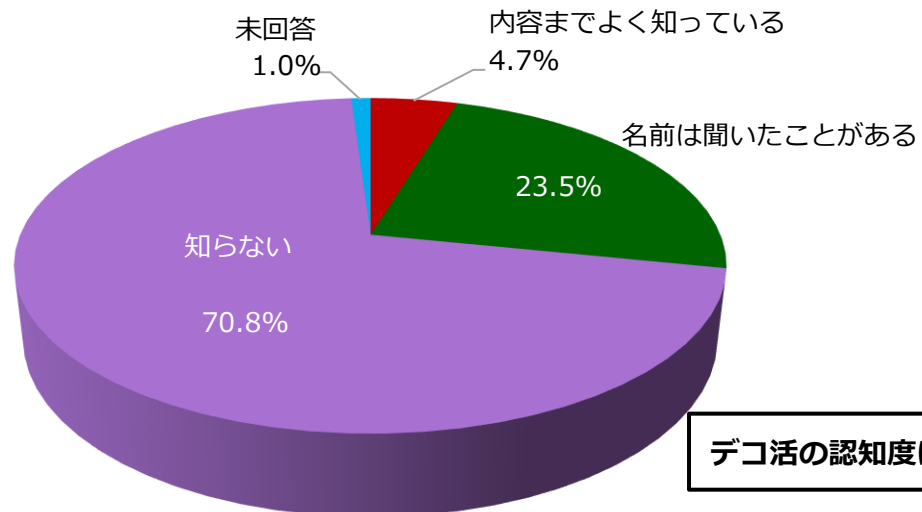
各項目で「導入の予定はない」と回答した理由についてみるとおよび「次世代自動車」を除く4項目で、「費用負担が大きい」、「現在の住宅には導入できない」の2つが主な理由として挙げられています。「家庭用エネルギー管理システム（HEMS）」では「よく知らない」という理由も多くあります。

また、「次世代自動車」の導入できない理由として「費用負担が大きい」が突出して多くなっています。

3 デコ活について

- (1) あなたは、脱炭素につながる新しい豊かな暮らしを創る国民運動の愛称「デコ活」を知っていますか。
- あてはまるものを1つ選んで○を付けてください。

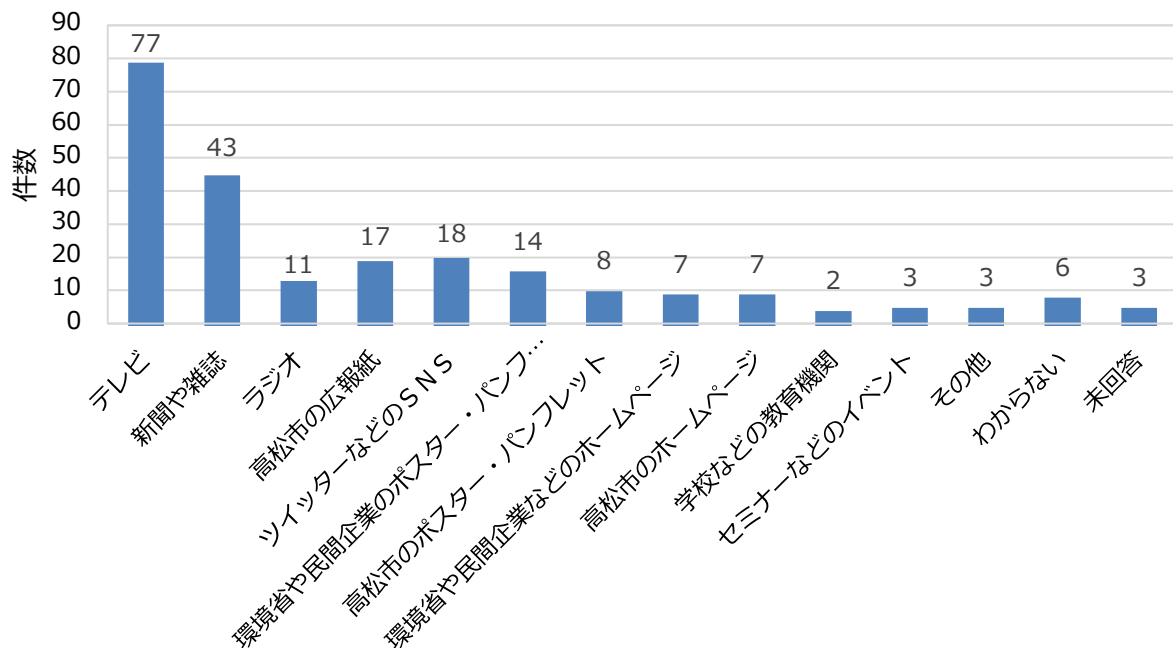
デコ活の認知度



デコ活の認知度は約3割

- (2) (「内容までよく知っている」「名前を聞いたことがある」と答えた方に) あなたはデコ活を何で知りましたか。
- あてはまるものすべてを選び、番号に○を付けてください。

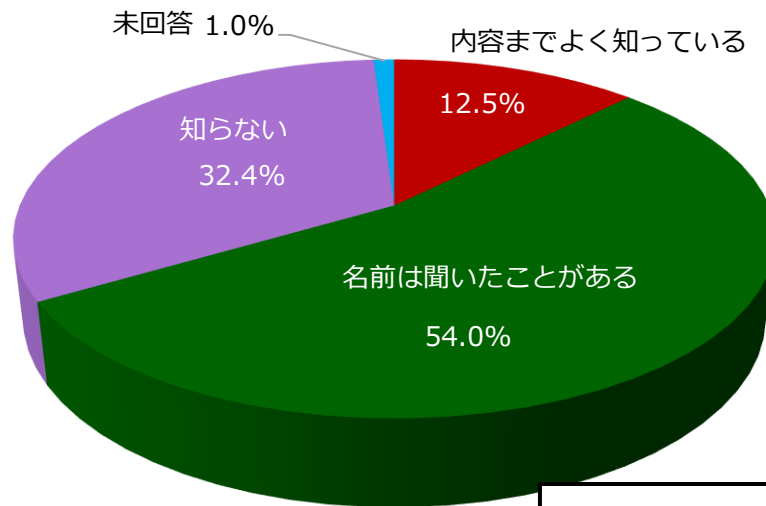
「デコ活」何で聞いた？ (複数回答あり)



4 ゼロカーボンシティについて

- (1) あなたは、令和2年10月26日、臨時国会の所信表明演説において、菅内閣総理大臣が「2050年カーボンニュートラル」を表明したことを知っていますか。
あてはまるものを1つ選んで○を付けてください。

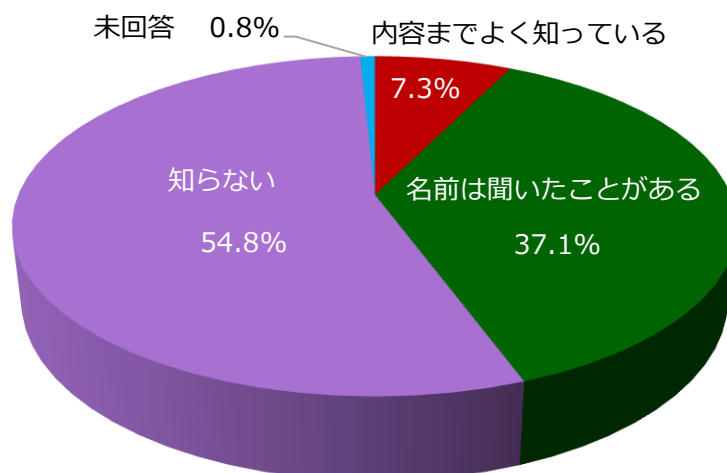
国の「2050年カーボンニュートラル」宣言の認知度



カーボンニュートラルの認知度は約7割

- (2) あなたは、本市が令和2年12月3日市長定例記者会見にて、2050年までに二酸化炭素排出量を実質ゼロにする「ゼロカーボンシティ」宣言をしたことを知っていますか。
あてはまるものを1つ選んで、○を付けてください。

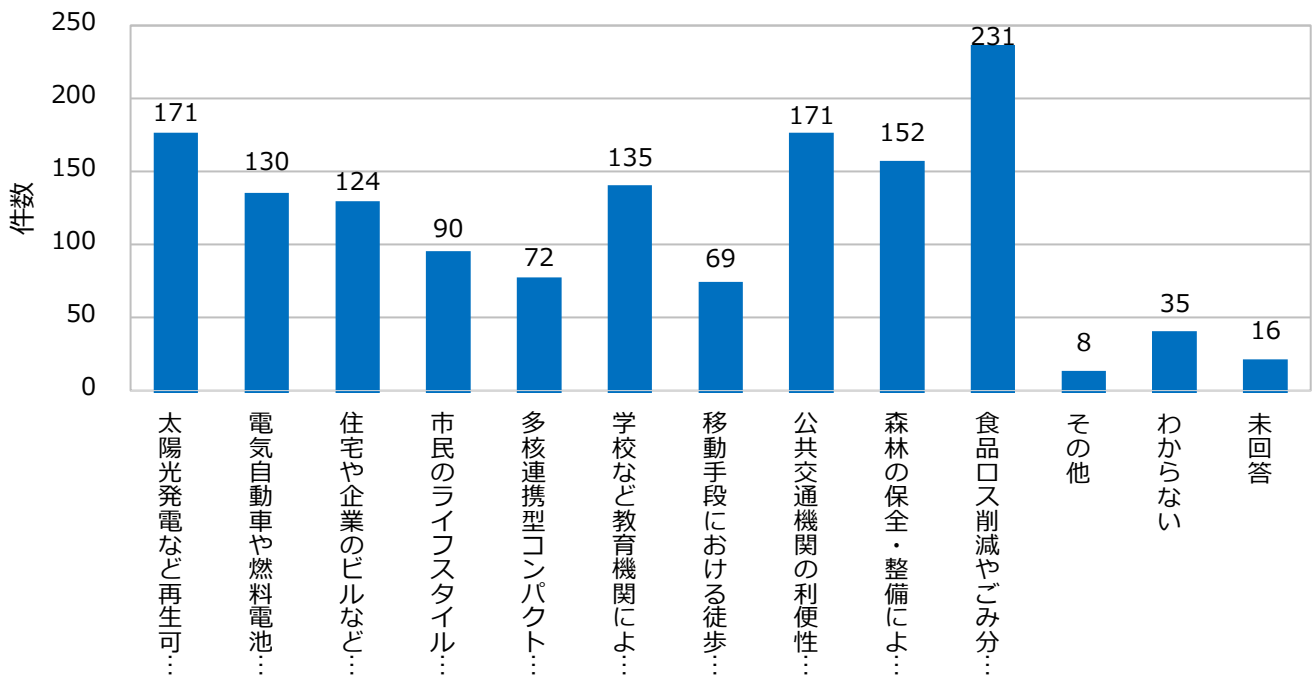
本市の「ゼロカーボンシティ宣言」の認知度



高松市ゼロカーボンシティ宣言の認知度は約4割

(3) ゼロカーボンシティ実現のために、市はどのようなことを優先的に取り組むべきだと思いますか。
 あてはまるものすべてを選び、番号に○を付けてください。

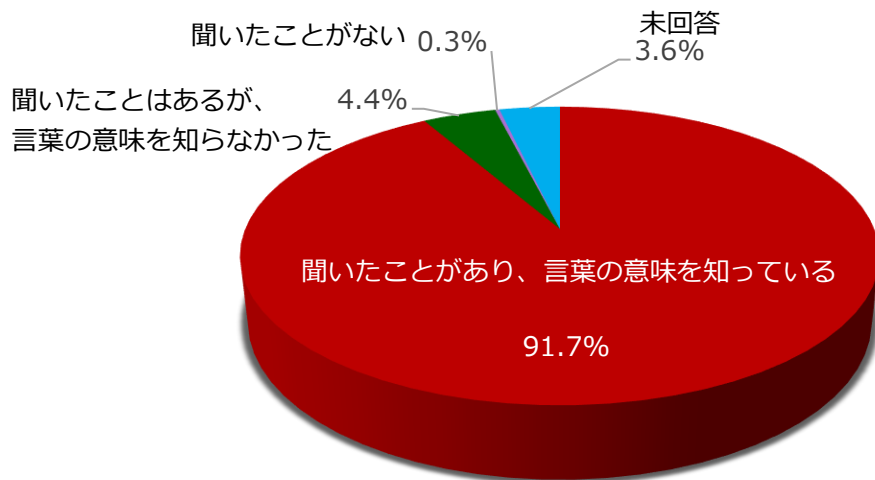
ゼロカーボンシティ実現のために市が取り組むべきこと（複数回答あり）



優先的に取り組むべきものとして最も多かったのが、「食品ロス削減やごみ分別の徹底など、ごみの排出削減や資源化を推進する」となり、次いで「太陽光発電など再生可能エネルギーの普及を促進する」、「公共交通機関の利便性を向上させ、過度に自動車に依存しない移動を推進する」、「森林の保全・整備による都市を中心とした緑化を推進する」という結果になっています。

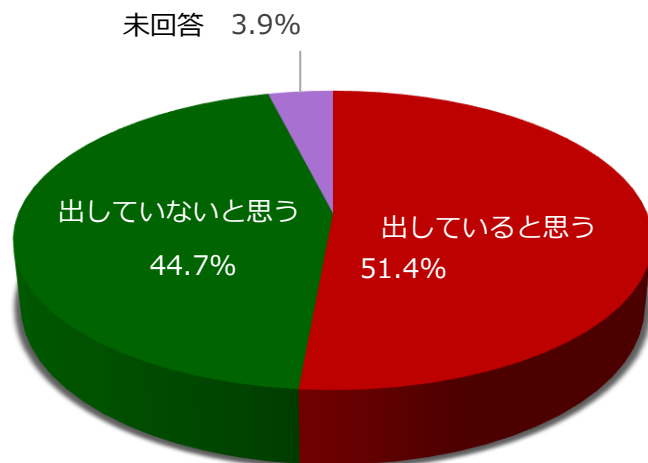
5 あなたは「食品ロス」という言葉を聞いたことがありますか。

あなたは「食品ロス」という言葉を知っていますか



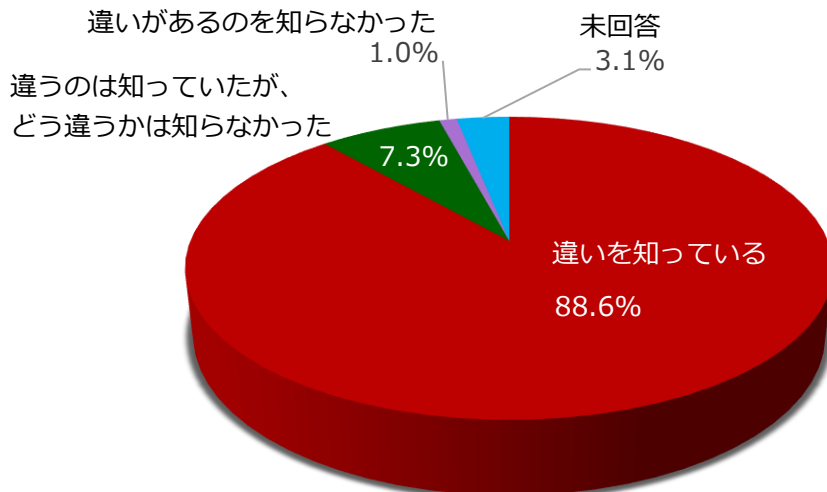
6 あなたの世帯では食品ロスを出していますか。

あなたの世帯では食品ロスを



7 食品に記載されている「賞味期限」と「消費期限」の違いを知っていますか

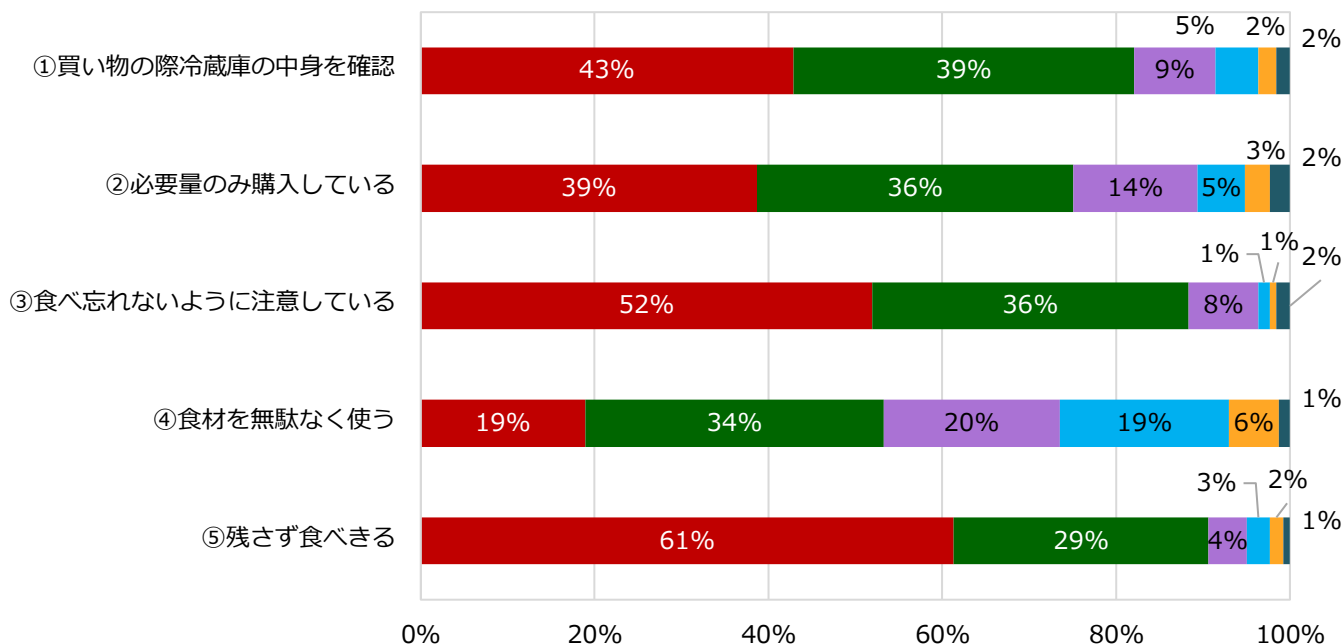
「賞味期限と消費期限の違い」



8 あなたは「食品ロス」の減量につながる取組を現在、行っていますか。

「食品ロス」削減の取組

■ 行っている ■ ある程度行っている ■ どちらとも言えない ■ あまり行っていない ■ 行っていない ■ 未回答



9 地球温暖化対策に関する御意見

※ 質問趣旨と異なる回答は除外しています。

◆ 20代

- 市民にかかる負担がなるべく少なくなるよう、太陽光パネルや、電気自動車を減税対象にするよう取り組んで欲しい。

◆ 30代

- 蓄電システムを含めた再生可能エネルギーの普及促進と、電動キックボードの導入、電動バスの導入。自動車依存をなんとかしないといけないと思う。

◆ 40代

- 今後電気自動車が普及していくなれば、賃貸集合住宅でも充電できるようになって欲しいです。食品ロスだけでなく、衣料品など安く買ってシーズン毎に買い換える、電化製品も修理するより買うほうが安いなど物を大切に使うことが難しくゴミが増えていく、そして地球温暖化も進んでいくと感ぜられ残念に思っています。
- ドラッグストア等で賞味期限が近いものがまとめてコーナーで売られているが、まじまじと見るのが恥ずかしいと思ってしまうので、堂々と買えるようにしたいです。

- 地球温暖化についてなのですが、火力発電に頼っていますが次世代の安全な原子力発電にシフトしたら良いと思います。
- 電車やバスの便が少なく、ちょうど都合のよい時に利用できないので不便。
- 自宅近くに駅が無い。
- 買い物の時、荷物が多いと公共交通は不便。
- タクシーが少なくつかまらない。
- 賞味期限切れの物でも食べられるので、それらの食品を活用する方法（すぐに廃棄しない）を考えていきたい。フードバンクなど希望者に配布又は低額販売する仕組みづくり。電気自動車などエコにつながるものの補助金制度を作ってほしい。コトデンやバスは金額が高いので、利用を控えている。これについてもエコの観点から補助制度が欲しい。予算で全員分は無理としても（エコバックポイントを〇点以上貯めた方に！とか）エコの活動を実施している人限定にしても良い。

◆ 50代

- 駅ビルやアリーナ、ホテルや大学など新しくできる大規模な開発は楽しみでもありますが、高松市がこれらの開発の温暖化対策や食品ロスにどれくらい関わっているのかなとふっと感じました。穏やかな瀬戸内海の魅力のアピールに上記のような対策も満載だと素敵ですね。
- スーパーやコンビニの売れ残りなどは気になります。食べ放題なども、準備したものが全部食べきれないのではと感じます。自分では食品ロスがないように気をつけていますが、全部食べきれないことがあり、個包装のものがもう少し低価格なら購入しやすいかなと思います。
- 電気については、夜間のイルミネーションや、看板の電気がもったいないと思います。
- 家庭からの生ゴミを飼料や肥料にしたり、バイオエタノールにするなどの取り組みをもっとやってほしい。
- 地球温暖化について、地方では家族の人数だけ車を持っている。高松市は、市街地に都市機能が集中しているので、公共交通機関を充実して、車移動を減らすべきだ。高齢者の足も確保できる。食品ロスについては、賞味期限を廃止して消費期限のみにする。美味しい美味しくないは、個人の判断で良い。食品が傷む目安の日だけ分かれば良いと思う。そうすれば、賞味期限で廃棄する量が減る。
- 森林を伐採して太陽光発電を行うことと、田んぼを埋め立てエコな家屋を新築することに矛盾を感じる。田畑や森林が減りいつの間にか建築業らしきトラックが出入りする。公園が足りず、ところ狭しと住宅が建ち、細い道にもアスファルトが敷かれ街が暑くなる。学校のそばには古い家屋が立ち並び、子供がいる家族は学校から離れたところに小さな家を建て子供の送り迎えに車を使う。せめて小学生の安全な通学路の確保と、中高校生がバスに乗って通学できるようにしないと、高松市で生活をお薦めできないし、車は増える一方ではないでしょうか。不気味な空き家を5年放置したら競売にかけて取り上げて公園にしても良いのではないかと。

- テレビで南極の様子を見ると悲しくなる。次世代の子供達の為にも何かしたい。しかし、何から取り組めば良いのか分からない部分もある。具体的な内容を知らせて欲しい。地球の温暖化には早急に取り組んで欲しい。
- 地球温暖化に対する補助金、EV車への補助金を拡充・増額してほしい。一方でEV車が普及することで、ガソリン税および自動車税が減少、これにより道路財源が減少し、ガソリン車への増税を懸念。
- スーパー、コンビニなど、もっと消費期限間際の商品を安く提供出来れば。
- 子供たちの未来のため、全世代がこの問題に関心を持ち、取り組める社会になればいいなと思います。
- 排出口スから他の商品を生み出す工夫をしていくべき。
- 食品ロス、ホテル等の宿泊施設の食べ物の廃棄を見直さなくてはと思います。
- 自然環境を壊しすぎ。食品を無駄にしすぎ。ゴミはすべて燃やさず、自然に還るようにすべき。
- 予算や都市計画等、時間制約があるものも多いので一人ひとり市民が家庭内で気を付ける意識を持つ、ということを中心掛けることが大切だと思います。また、公共交通手段を利用することも必要だと思います。例えば、既存の設備・インフラを利用すること。バスなどは現在ほとんど利用する人がいませんが、年を重ねると車に乗ることも困難になり、バスの利用は不可欠になると思います。将来的なことも視野に入れて、今からバスの利用に慣れておくことも必要だと思います。ちなみに電気・ガス・水道など前年比でExcelに入力しプリントアウトし貼っています。可視化することで節約・ゼロカーボンの意識も高まりますし、金額が下がっていると実際、嬉しいです。生態系のメカニズムが崩れていくことや気候変動（異常気象）によってもたらされる災害など国民の生活に大きく影響を及ぼすことを考えると、一人ひとりの意識を高めることは大切だと思います。一方、森林伐採などは経済活動の中で否めないことなのかと感じることもあります。大きなうねりとなるのはまだまだ先ではないでしょうか。食品ロスも含め、今あるものを大切に使う感謝して頂くというだけでも数字として顕著に表れると思います。私自身もこれから一層積極的に取り組んでいきたいと思っています。
- 一人ひとりが意識して、実行すべきことだと思う。「自分一人くらいやらなくても大丈夫だろう」ではなく「自分だけでも気を付けていこう」という気持ちでできることから取り組んでいこうと思う。
- 太陽光発電をもっと推進し、補助金を増やしたほうが良い。
- 外食産業、スーパーなどの食品ロスが大きいと思う。

◆60代

- 廃棄が多くてどうにかならないかといつも思っています。
- 地球温暖化対策として、電気自動車への移行を中国等を中心に世界的に推進しているが、そもそも電気を作るために化石燃料を使っているため、対策にならないのではないかと思っている。
- お惣菜や野菜のプラスチックの受け皿・雑貨の梱包にプラスチック製の詰め物など外国に比べ使いすぎている気がします。コンビニの数が多すぎるように思います。
- 大手企業の食品ロス減量が必要！

- 地球温暖化対策は地球全体での取り組みと個々の行動の変化が求められる。食品ロスについては、食材の購入や保存方法の見直し、食べ物を無駄にしない工夫など日常生活での努力が大切だと思う。
- 肉、魚、お惣菜の食品トレイが多すぎる。
- 食品の単価が安いので廃棄していると思う。単価を上げてもつたいないと思う気持ちにする。
- 剪定した木、草刈した後のゴミを肥料として、どこかに集めればいいのと思う。そこら辺中で野焼きしているが、気になるポイントでもつければ割といいかも。賞味期限切れの食品も家畜や保護動物に使えばいいのと思う。
- スーパー、コンビニなどに品物が豊富にあるのが問題。

◆70代以上

- 食品ロスについて、スーパーの産直コーナーに野菜を出荷しているが、1~2日で売れ残りの野菜が廃棄処分とされています。十分食材可能な野菜が多く有り何とか有効活用出来れば(子ども食堂他)食品ロス防止に繋がると思います。
- スーパーで賞味期限切れを安価で買えるコーナーを見やすい表現でアピールすると消費につながると思う。
- SDGs (リユース、リフォーム、リサイクル) "もったいない"・プラスチック→再生利用紙・木・技術?Dx
・グリーンサステナブルな環境づくり
- スーパーや食堂から出るロス食品などは牛、豚などの餌に利用して捨てないようにする。行政が集荷運搬に協力する。廃品はバイオマス発電に利用しては、どうですか。
- スーパー等で衝動買いや気分で買い物をしない。生活排水を少なくする。マイクロプラの自然界や生物に影響を与えるのを防ぐ。化学物質が自然界に影響を及ぼさないように配慮する。海水を透明度の高いものにする。
- 二酸化炭素排出を考えるよりも、もっと地球温暖化に影響を及ぼしているメタンガスの発生を減らす方が早くて効果が出やすいと思う。日本には山が多いため刈り取った草や山木の落葉等は自然に腐敗し、二酸化炭素の何十倍もの温暖化ガスを発生させているのである。それらの植物片を全て固形化して燃料にして国内で使用するか外国に輸出すれば、国内の温暖化を防いだことになるのでは。食品ロスも余分な焼却をしないで全て分類して粉末化及び固形化して、貧困国の子供たちへ無料で輸出してあげたらと思う。焼却費用より費用が掛かるかは、分からないが外国の助けになるのと、燃やすより二酸化炭素の削減につながると思う。
- テレビ・行政の扇動的な表現はやめてほしい。ヨーロッパ主導の行動に引きずられないでほしい。周囲の環境が違いすぎて、日本は海に囲まれて必要性は薄い。
- 一人ひとりが気を付けて行動すれば、地球温暖化を防げると思われるので、他人事と思わず、まずは、自分から行動を起こすことが大事と思われます。将来の子供たちの為にも大事なことです。

- 地球温暖化対策は地球規模の問題で、国連が中核となり推進すべき課題である。食品ロスは若者への教育が大切で「もったいない」との考え方を強化すべきである。
- 世界の国々が一緒に対策を行ってほしい。沈んでゆく島々をみると心が痛む。
- 食料品店やスーパーなどでの販売方法をもう少し考えて、一人暮らし向きの少量パックを増やしてほしい。昔の商店のバラ売りや計り売りが復活すればいいのですが。
- 温暖化対策は必要だけど、対策を取らないと先に全世界に及ぼす環境変化の「こわさ」を具体的に示していないと一個人では認識が非常に弱いと思う。対策より未来の「こわさ」をメディア等利用して行わないと。
- 石炭や石油による火力発電をやめなければなりません、個人的には、ガソリン自動車を電気自動車に変換していくべきです。究極的には、徒歩や自転車がいいのですが、そのためのPRは非常に重要だと思います。
- 緑を増やしていく。アスファルトは水を通すものにする。
- 日本人、食べすぎだと思う。腹七分目～腹八分目がよらしい。テレビなど、美食、大食いなど多すぎる。やりすぎだと思う。
- 将来どうしてもやらなければならない事柄なので、国民へのPRに努めてほしい。
- 家庭ごみの再活用がもっとできないものか。公共施設、乗物から積極的にゼロカーボン化を進めてほしい。
- 各個別世帯に再生エネルギーの普及を徹底すべき（補助と義務化）。
- 「賞味期限」という表示を使用しないようにする。美味しいかどうかは人によって様々で意味をなさない。
- 地球温暖化対策は我々の住む地球にとっては今不可欠の問題である。個人による対策は勿論であるが国家が又は政治がもっと積極的に行動を起こすべきです。
- 街中に緑を増やす施策を具体化する。
- 不良品も店頭に出し、価格を下げる。
- 子供のころからしっかりと教育してほしいと思います。
- 各々、自覚を持ちましょう。
- 食品ロスについてスーパーでの販売にも問題があると思う。少人数で少ししか使わないのに。例えばハムにしても2束にしているものが多く結局使わないで、捨ててしまうことが多い。
- 販売の際に賞味期限より早く商品を入れ替えることの愚かさ。このような商品ばかり無駄なく販売できる場を作ってはどうか。年金生活者も随分と助かるしおろかな社会生活をささやかながらも改善できる一歩かも。
- 食品であれその他の品々をビニール袋に入れているのをいつも不思議に思っている。何か他の物（無害な物）で包めないものか？

- 公共交通機関の利便性を向上させるということで、琴電伏石駅を新設したのだから、高速バスの乗降車できるように行政はもっと指導していただきたい。
- 一般人がこれらの問題に取り組めない原因の一つには各人で取り組めることにどのようなことがあるかに気が付いていないことにあると思います。
- 家族が少なくなっても量をたくさん作って冷凍したりしても結局は捨てるという話を耳にします。沢山作る習慣を止め、適量を心掛けるべき。
- 買い物は必要な物だけ買うようにする。
- 今の大人の考えも大切ですが、子供たちへの教育により今後の未来を作っていく考え方を育てていくことにも力を入れてはどうでしょう？
- 自転車道の整備による車移動の減少。